

ひが 彼岸



俳句では春の季語

「暑さ寒さも彼岸まで」「ひがん花」「ひがんだんご」などと、彼岸は昔から日本人に親しまれてきた国民的行事です。

春分・秋分の日を中日とし、その前後一週間のあいだ、寺々では彼岸会^えという法事が勤められ、祖先をしのび、墓参や寺院に参詣する期間となっています。

彼岸とは、文字通り、向こう岸のこと。サンスクリット語「パーラミター」の漢訳「到彼岸^{とう}」を略したもので、私たちの住む迷い多い此岸^{しがん}から、煩惱^{ぼんのう}の川を渡り越えて到達する仏の世界をいいます。

お釈迦さまは、此岸から彼岸へ到達するための道として、六波羅蜜^{ろっばらみつ}の教えを説いておられます。

太陽が真東からのぼり、真西に沈んでいくこの日に、此岸の現実を反省し、彼岸の仏さまのお徳をたたえるのです。

そういえば、極楽は真西にあると聞きました。